

# 今日も「」あがり!

第61話 国産ゴマにリアット!! の巻



**高垣達郎**  
(たかがき・たつろう)  
1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に(株)ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。(株)ロボストス・代表取締役社長。

皆さん、こんにちは！ 冷蔵庫が壊れていることに気づかず、お腹まで壊れてしまいましたロボストス高垣でございます。今とてもお腹が痛いです。

さて、弊社ロボストスは2021年11月21日で創業10年を迎えました！ 盛大に祝う遊び心も持たず、漢はシブく、当日は北海道の鉄工所におりました(笑)。10年前、僕は電動工具を握ったことすらありませんでした。でも「なんとかできないか」という声に「なんとかしてみよう」と取り組んでいたから、できることが増えていったんですよね。気づけば自分で図面を



写真1：香胡園・鈴木香純さんがつくる「国産金ごま」。彼女の人生を支持する消費者がたくさんいるのだ



写真2：バインダーとゴマの動きに、人間が合わせて動いていた頃の作業風景。今回求められたのは、「当事者だから気づけないこと」に気づき、作業を改善できるかだった



写真3：カスタマイズの前に、鈴木さんのゴマ作りを手伝うサブちゃんに「リアット」を指導した。バインダーが刈り取る前にゴマを抑え込むだけで、作業は劇的に効率化できた



写真4：サブちゃんの「リアット」を機械化すべく、バインダーの前方と左側に位置調整可能なガードを製作した。ちょっとした工夫で快適な収穫作業が実現だ！

描くようになり、工場まで作っていました。「なんで俺が？」とよく夢を見ているような気持ちになります。人生どうなるか分かりませんが、一つ確かなのは、これからの10年はこれまでの10年よりもっと良い仕事ができる、ということ。さつ、今月も続けていきますか？」

## 客観的に作業を疑ってみる

埼玉県日高市でゴマを自然栽培する鈴木香純さんから「作業を見てもアドバイスして欲しい」と連絡

がありました。鈴木さんは高校生の頃に摂食障害に苦しんだ経験から農業の道に入り、21歳で自ら畑を開墾した、現在27歳の気骨のある国産ゴマの生産者です。9月に現場に駆けつけると、米麦用のバインダーでゴマを収穫していました。ゴマの背丈は水稻の2倍以上！ 刈り取り時にバラつき、鈴木さんの顔にぶつかるわ、お友達のサブちゃんは腰をかがめっぱなしで大変そうでした。しばらく考えて、「バインダーが引き込む前にゴマを

抱えてみようか」と僕が試しにゴマにリアットしてみたら想像を超える手応えがありました。ヨシ！ 人間の腕の代わりになるガードを作ってみよう！！

本当にちょっとした工夫ですが、収穫作業は劇的に楽になり、さらに、ツールオベが前提だった作業はワンオペでもできるようになりました。「機械は道具であって、道具は使いやすくするもの」、そう考えられるようになるには慣れが必要ですし、当事者だと気づけないことも多くあります。部品加工技術を背景に客観的な立場から作業を疑い、ロボストスが若手農家のアイデアの源泉になれたらとても嬉しいですね。ということで、僕はトイレに行ってきます！ 今月も一丁あがり〜〜〜